

資料1

春日部市立病院
医療空間環境デザイン研究会レポート 2008 年度
概要版

目 次

心地好い医療空間環境デザインの提案へむけて	1
PART1 心地好い医療空間環境デザインの提案・・・長尾亜子	2
建築環境 Point2～5 待合空間の提案	3
PART2 これからの課題	
より良い医療空間環境デザインの実現に向けて・・・六反田千恵	4
1. みんなが協働できる組織づくり	4
2. 既存病棟は新しい環境づくりのための「実験室」	4
3. 新しい医療環境の実現へ向けて	6

心地好い医療空間環境デザインの提案へむけて

近年、医療制度の改革や社会構造の変化・医療の高度化などを背景に、公立病院の運営は困難な局面をむかえています。春日部市立病院もまたこうした趨勢とともにあるのですが、医療が担っている公共性・公益性は決して軽視されるべきものではありません。日本は今、医療・福祉・教育に国家運営の基軸を置き換えていく時が来ているように思えます。そのような時代であるからこそ、長期的な視点で、地域の医療が安定的に公平に運営されるように熟慮する必要があります。

また、人々が医療に求めるものも変わりつつあります。成熟した社会にあって、もはや病院はただ「病気を治す工場」であるだけではなく、人々が安心して快適に利用できる環境も備えた場でありたいものです。利用者へのサービスの充実や環境デザインは、ただ医療空間を優しいものにする、というだけではありません。多くの医療従事者が実感しているように、「快適である・心地よい・家庭的な安心感がある」環境は、人間が潜在的に持っている自然治癒力を高め、投薬量を抑制し、治療期間を短縮するなど、治療のプロセスに重要な影響を与える可能性を持っています。

春日部市立病院は築40年の西病棟と築22年の東病棟から成っており、改修・新築などの必要に迫られています。今後、新病棟の建設までに、旧病棟をどのように維持・活用していくか、維持のための出費や現在の医療水準に達していない部分を使いこなしていくこと、それをただ「負担」とするのではなく、病院再生のための「実験」や「提案」としていくことはできないでしょうか。毎年のひとつひとつのささやかな改修工事であっても、やり方次第で次の段階につなげていくことのできるものになるはずですが、そうした思いで、このレポートをまとめさせていただきました。

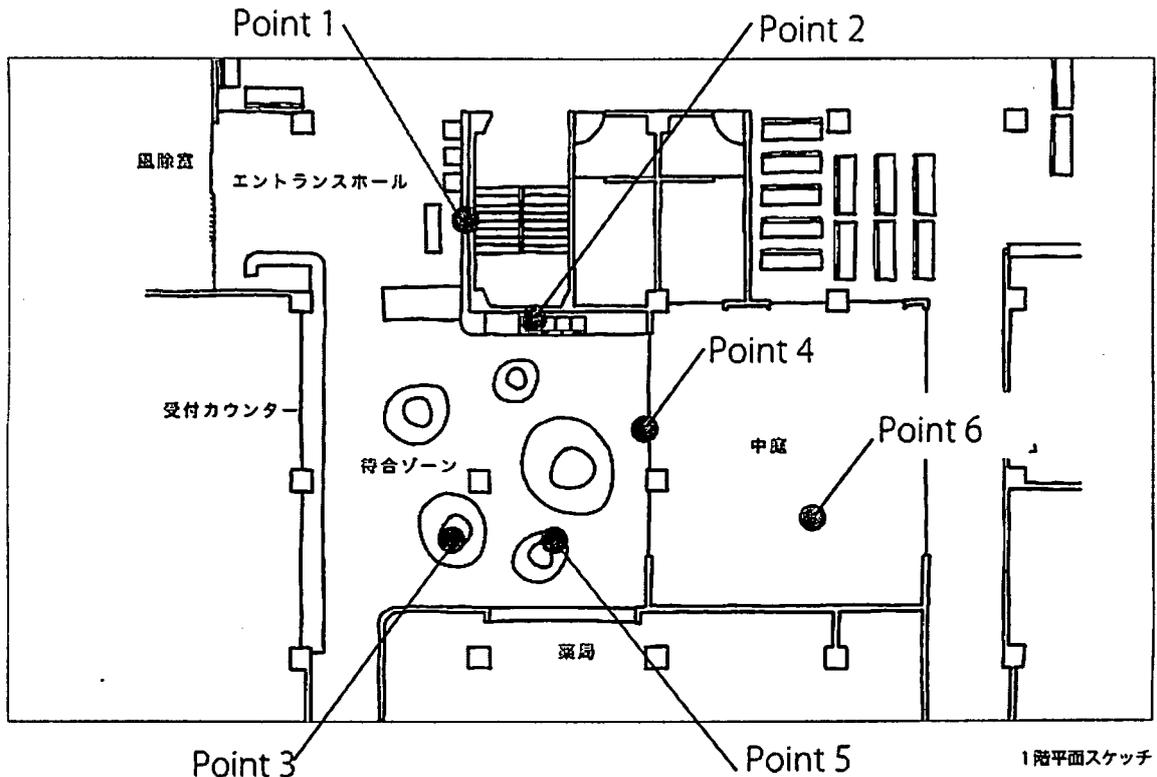
ほぼ10ヶ月に渡って、多忙な業務の中、根気よくご意見をくださった病院スタッフの皆さまに感謝いたします。

平成21年3月17日

六反田千恵
春日部市立病院医療空間環境デザイン研究会

PART1 心地好い医療空間環境デザインの提案 … 長尾亜子

春日部市立病院の「顔」ともいえるエントランスホールから待合ゾーンの改善イメージを、研究会メンバーとの話し合いで浮上り来た問題点を中心に提案しました。ポイント1：エントランス空間へのサイン計画、ポイント2：待合ゾーンの収納壁計画、ポイント3：「人に優しい待ち方」をテーマにした丸形ソファ、ポイント4：待合空間と中庭の間のガラス窓と遮光計画、ポイント5：輻射熱を活用した快適な温熱環境計画、ポイント6：人の気配が感じられるやすらぎの中庭への提案、以上の6点から提案しました。



- | | | |
|--|---|---|
| <p>Point 1</p> <p>エントランス壁面</p> <p>サイン計画を盛り込んだ新しい壁パネルを提案します。</p> | <p>Point 2</p> <p>待合ゾーン壁面</p> <p>テレビ、自動販売機、ゴミ箱などを一つの壁パネルに収納してすっきりさせます。</p> | <p>Point 3</p> <p>待合ゾーンの「待ち方」</p> <p>多方向に視線が向くラウンドソファを提案します。</p> |
| <p>Point 4</p> <p>待合ゾーンと中庭の
インターフェース</p> <p>熱反射シートを撤去し、ベンチを撤げ中庭と一体化した明るい待合空間を提案します。</p> | <p>Point 5</p> <p>待合ゾーンの温熱環境</p> <p>コールドドラフトにも負けない強い熱環境を提案します。</p> | <p>Point 6</p> <p>中庭</p> <p>通り庭として、また眺めてくつろぐ庭としての中庭を提案します。</p> |



建築環境 Point 2～5 待合空間の提案

待合空間の快適で・安心感のある・心地よい空間環境デザインを提案します。

人の動線が交錯し、また患者さまにとっては「待つ」空間であり、病院スタッフにとっては「受け入れる」空間となります。

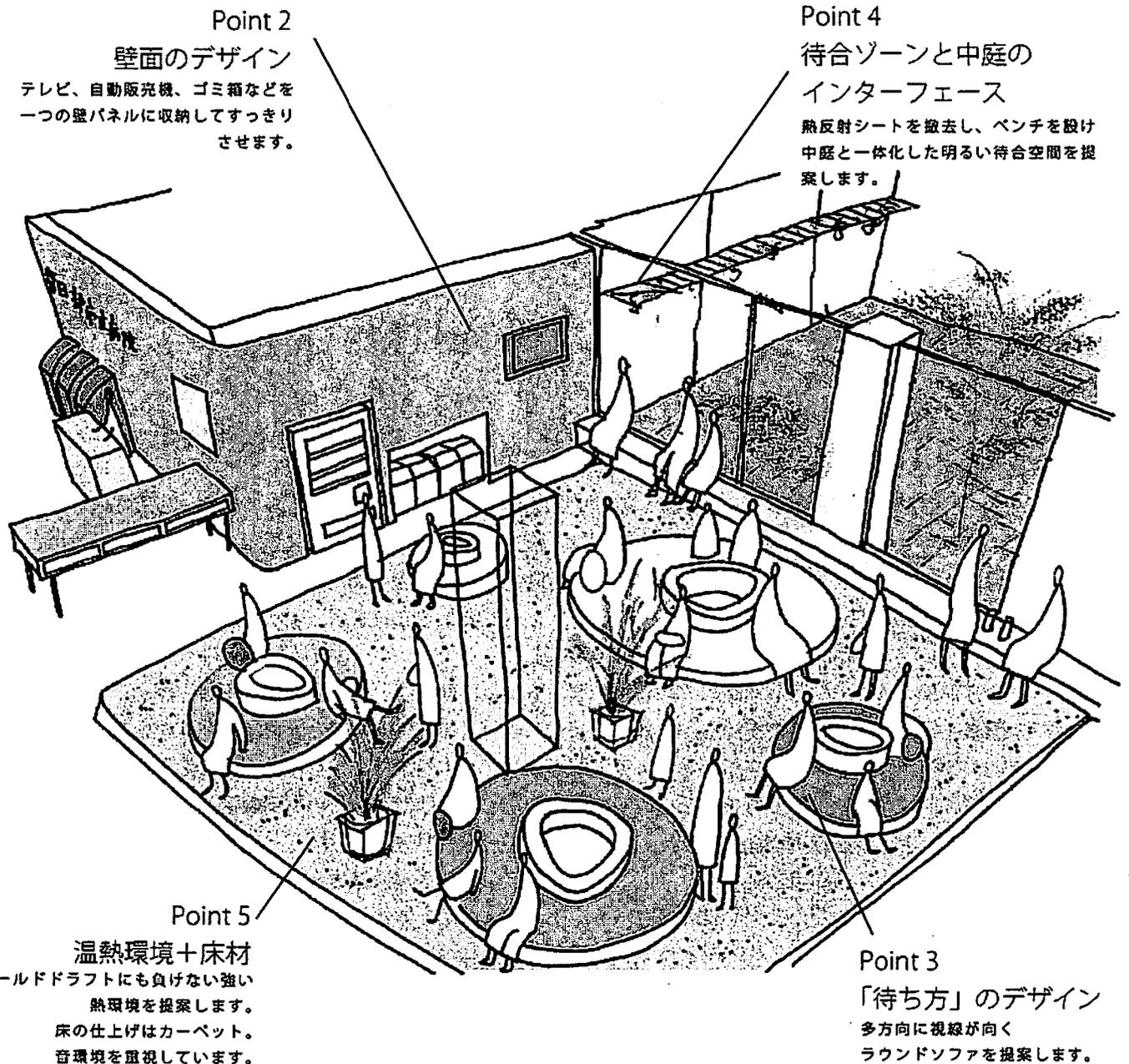
誰かにとって心地よいのではなく、皆が快適な空間となるような建築的しつらえを施すことがこれからの医療空間環境デザインに求められています。

具体的には、光（自然光）を取り入れ、既存の良質な計画である中庭を活用し、人の視線を分散させリラックスした環境を作り出します。

音については環境において重要であり、音を吸収する材料を導入する事例も増えています。

清潔感と相対すると言われてはいますが、心地よさを選択する場合、検討の余地はあると思われます。

そして出来るならば温熱環境も整え、より安心感のある空間を提案致します。



PART2 これからの課題

より良い医療空間環境デザインの実現に向けて … 六反田千恵

PART2では、建替え時期を控えた春日部市立病院を運営していく上で、組織づくり、既存病棟の有効活用新しい医療環境の構築の3点を重要なポイントとしてあげました。

1. みんなが協働できる組織づくり

建て替え事業においては、既存建物の使い方の調査や既存のスタッフが大きな役割を担える可能性があります。

愛知淑徳中学校・高等学校校舎の場合、「依頼者、設計者、施工者の3者がともに考えながら協力しあってつくる」ことを重視し、とくに現場のスタッフの意見を効果的に活かす組織づくりに力をいれていました。学園側は、学園内建築委員会、校舎建設委員会、各部署のワーキンググループをつくり、職員室の備品や生徒達との関係、各教室の家具・備品に至るまで現場の声を反映できるような体勢づくりをしていました。

川口済生会病院の場合も、建て替え推進室を設け、運用委員会、建築検討委員会、各部門のワーキンググループをつくり、経営・事務・医師のほか、現場にもっとも近い看護師の意見をも反映できる体勢を整えていました。各段階で必要な議論を尽くし、部門毎の意見をきちんとすりあわせておくことは、最終的に多くのスタッフが納得し満足感を持って新しい環境で働くことに意欲的になる、という大きなメリットを生み出します。

また、「各段階で相談に乗ってくれること、きめの細かい対応をしてくれる」設計者の選定は、建て替えの質を高めていく上で重要なポイントになります。

2. 既存病棟は新しい環境づくりのための「実験室」

今の春日部市立病棟の多くの問題が、絶対的な面積不足に起因しています。特に病室の広さは、西病棟建設当時（約4㎡/1ベッド）、東病棟建設時（約6㎡）に対して、今の基準は1ベッドあたり8㎡と大きくなっています。また、病院全体の延べ床面積は1床あたり100㎡の時代になってきました。現在の春日部市立病院は350床ですから、約3.5万㎡必要になるのですが、現状は延べ床面積が約2万㎡ですから、1.5万㎡足りないということになります。

今の病棟の多くの問題（通路幅、患者相談室、トイレ、面会室、休憩室などの不足）が、この絶対的な面積不足に起因していますから、やはり新しくスペースを確保することが必須で、建替えや思い切った増築の時期が迫っていますが、それまでに既存の病棟をよりよく維持していくことも重要です。維持の為のひとつずつの改修工事を、新しい医療環境の構築に向けて、新しい材料の活用、新しい技術やアイデアの活用などの「実験室」として位置づけることが重要です。

医療環境に対する利用者側のニーズは、自宅のような便利さ・快適さ・安心感が得られる環境にあります。視覚や聴覚などの五感や皮膚感覚に響いてくる環境を全体として捉えて、きめ細かくデザインしていくことが、弱っている身体にとって安心できる快適な環境を提供することになります。既存病棟利用者の声に耳を傾けながら、既存病棟の改修を進めることも、新しい環境づくりの一環として捉えていくことが重要です。

図 1：愛知淑徳学園中学校・高等学校校舎建て替えの組織づくり

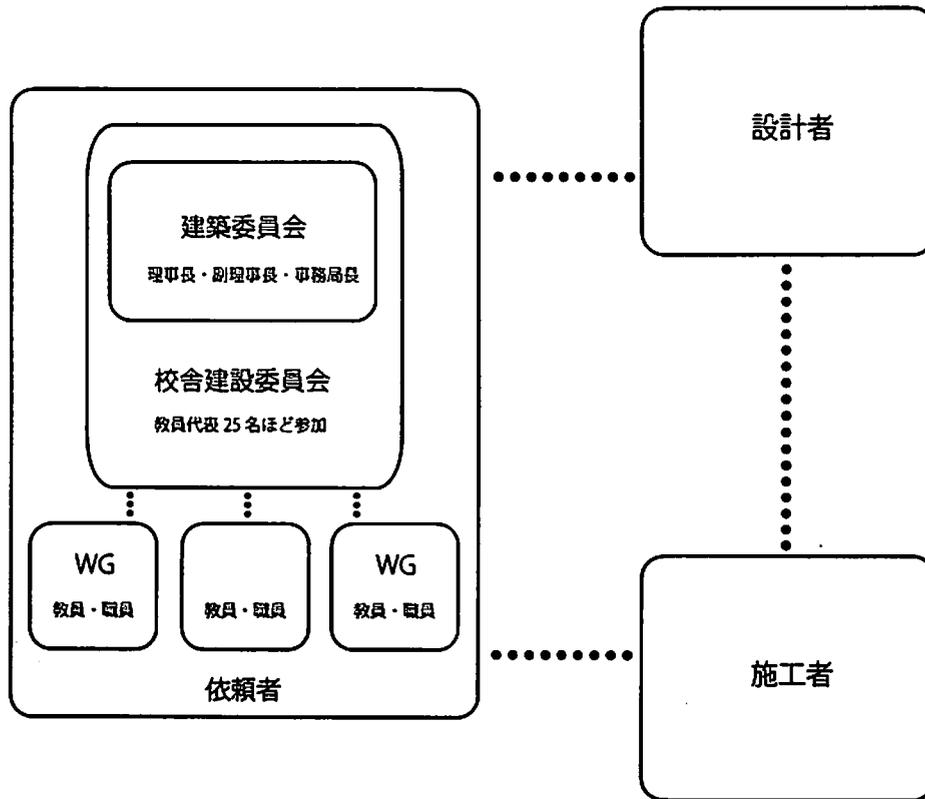


図 2：川口済生会病院の建て替えの組織づくり

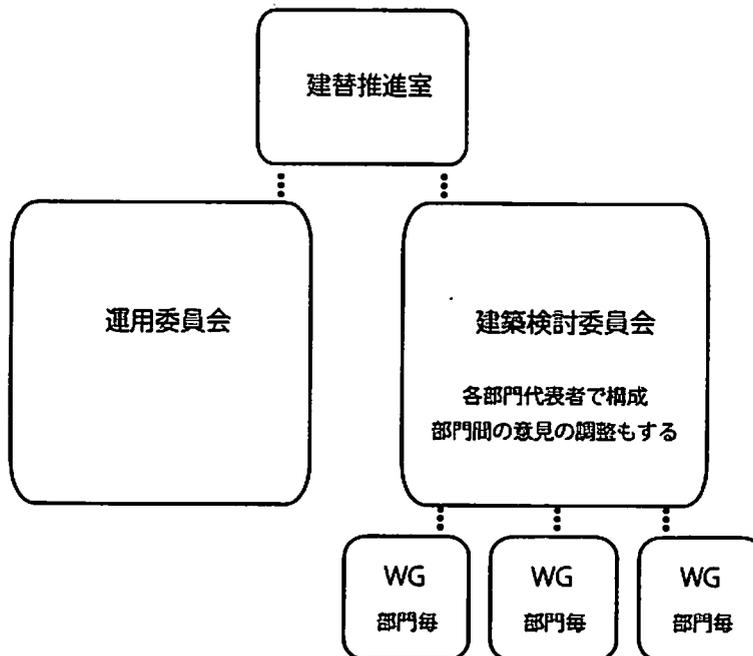


図3：1床あたりの病室面積の比較

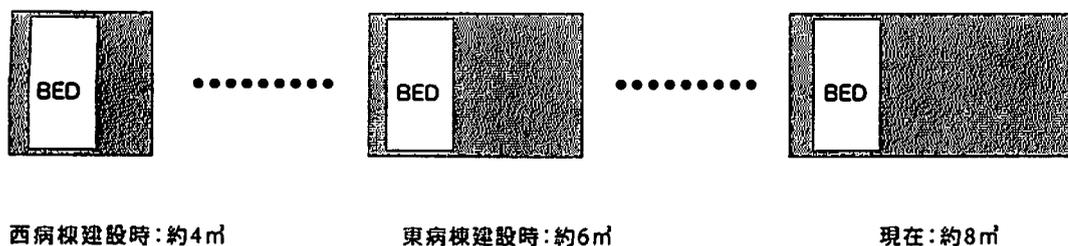
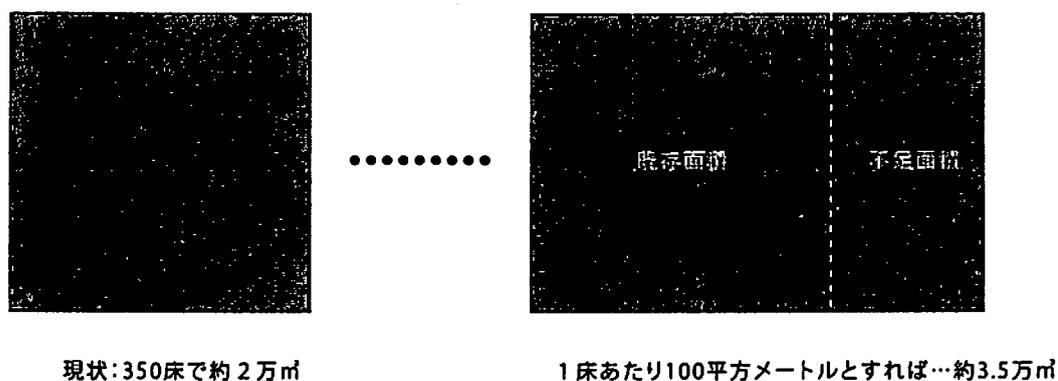


図4：春日部市立病院の延べ床面積



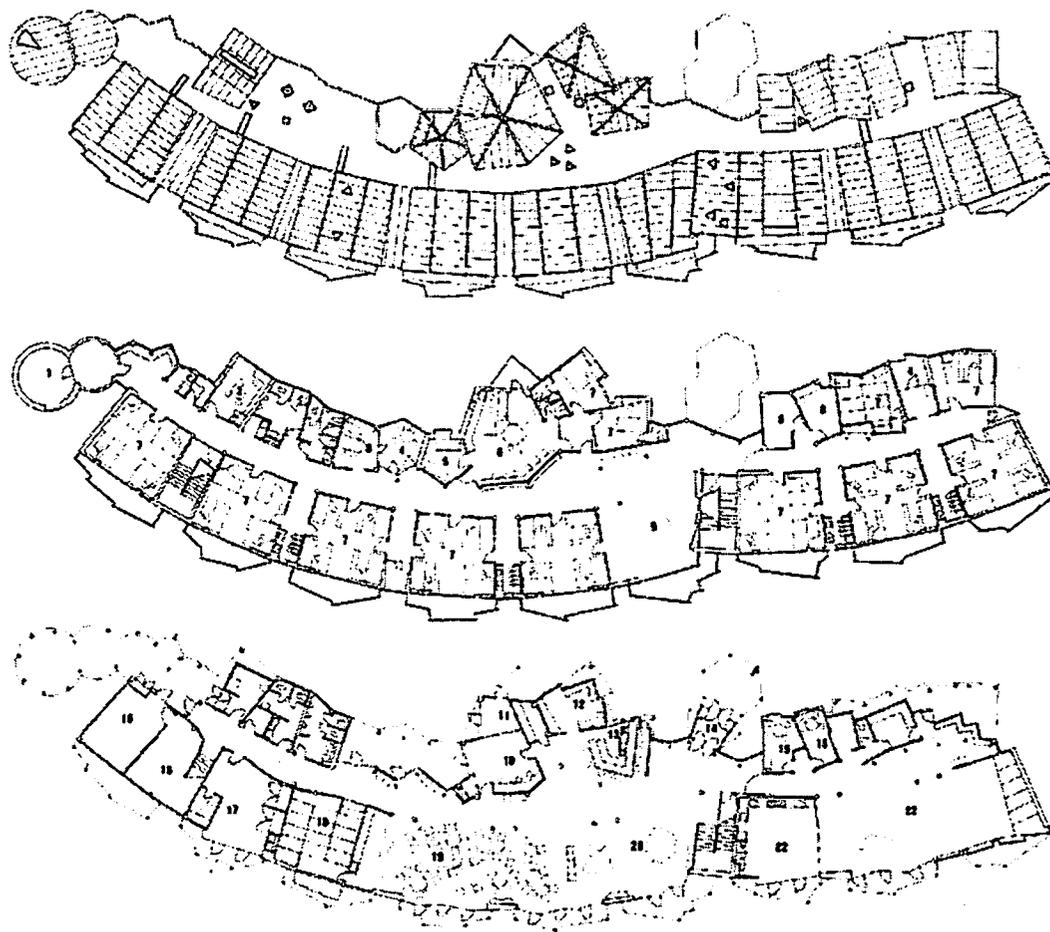
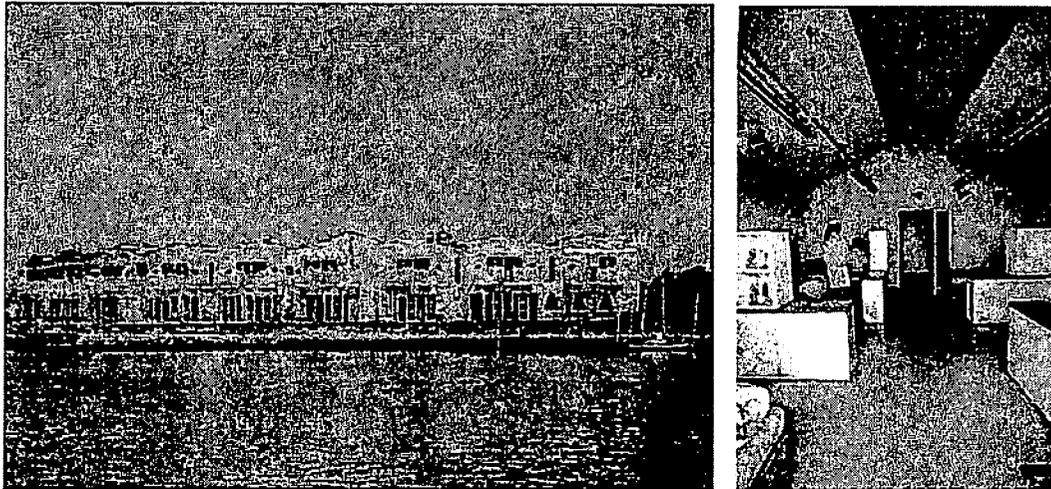
3. 新しい医療環境の実現へ向けて

医療空間の環境デザインは、人間の持つ五感に働きかける環境全体を快適なものにしていくことにあります。一方、これを運営する考え方・プログラムも目に見えない重要な要素であり、物理的な環境デザインと一体化していることでより良い医療環境をつくることができます。新しい医療環境を構築していくための考え方・プログラム、それをより良い形で実現するための建築的な提案について、事前に病院サイドと設計サイドで十分な議論をしておく必要があります。

「不知火ストレスケアセンター」（設計・長谷川逸子、第1回会合で紹介）は、建設前に病院長と建築家の間で何年もの時間をかけて病院のあり方・運営の仕方を話し合い、自然環境を取り入れた開放的な病棟が治療の上でも有効だという考え方で、海辺の環境を建築の中に取り入れるなど、病棟の配置計画からひとつずつの家具まできめ細かく設計されたものです。

病院の運営理念やプログラムの構築と平行して、設計者との話し合いの場を設けていくことで、はじめて質の高い医療環境の実現が可能になります。

図5:不知火ストレスケアセンター



設計：長谷川逸子・建築計画工房

春日部市立病院：医療空間環境デザインの研究会・運営スケジュール

年	月日	内容	
2008年	6月26日	第1回会合 春日部市立病院 主旨説明、自己紹介 資料「安らぎの医療空間を求めて」他	
	7月23日	第2回会合 春日部市立病院 多羅尾直子特別講師「建て替えは大きなチャンス」	
	8月22日	第3回会合 春日部市立病院 「We love 春日部市立病院」他 (病院スタッフから見た春日部市立病院)	
	8月29日	春日部市立病院 「問題点チェックシート」についてヒアリング	
	9月26日	病院内見学 問題点チェックシート対応案作成	
	10月7日	済生会川口総合病院見学	
	11月7日	第4回会合 「問題点チェックシート」、	
	2009年	1月23日	第5回会合 「環境と身体」特別講師・長尾亜子 病院見学、環境デザインのための現地調査
		2月27日	第6回会合 「春日部市立病院・エントランス待合空間の環境デザイン」 長尾亜子
		3月17日	第7回会合 最終報告書内容確認 長尾・六反田

春日部市立病院・医療空間環境デザイン研究会メンバーとご協力いただいた方々

デザイン：長尾 亜子 (建築家)
 アドヴァイサー：白井 温紀 (ガーデンデザイナー)
 庄司 哲人 (設備設計・テーテンス事務所)
 特別講師：多羅尾 直子 (建築家)
 代表：六反田 千恵 (共栄学園短期大学住居学科・講師)
 顧問：樋口 真基子 (共栄学園短期大学住居学科・教授)
 春日部市立病院：吉永 ひさえ (看護部)
 千田 真子 (看護部)
 谷口 聡子 (看護部)
 福島 泰子 (相談支援室)
 伊達 友紀 (相談支援室)
 工藤 年男 (中央診療部)
 青木 久美子 (中央診療部)
 長谷川 豊 (事務部)
 福田 克之 (事務部)